

1 計画の位置づけ、計画期間及び対象

(1) 位置づけ

○次の3つの市町村計画を兼ねたものとする。

- 図書館法に基づく図書館の設置及び運営上の望ましい基準（H24年12月19日文部科学省告示第172号）に定める市町村計画
 - 子どもの読書活動の推進に関する法律（H13年法律第154号）に定める市町村計画
 - 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）（R元年法律第49号）に定める市町村計画
- このほか、札幌市まちづくり戦略ビジョン、札幌市教育振興基本計画などの個別計画とも位置付ける。

(2) 現計画との関係

○札幌市ではR2年度に市民の読書活動への支援を総合的に進め、社会全体で子どもの読書活動を支える環境を整えるとともに、図書館の運営やサービスの基本的な考え方を示すための計画である「さっぽろ読書・図書館プラン2022（以下、「現計画」という。）」を策定した。

○現計画の計画期間がR8年度末で終了することから、次期計画として「仮称」さっぽろ読書・図書館プラン2027」を策定する。

(3) 計画期間

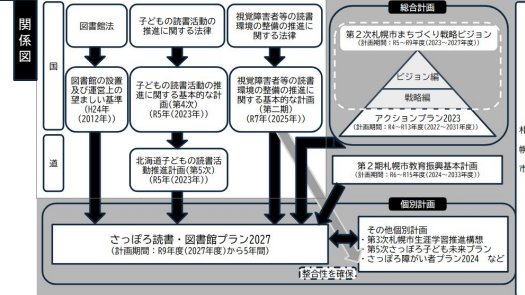
○R9年度（2027年度）からR13年度（2031年度）までの5年間

(4) 計画の対象

- 乳幼児から高齢者までのすべての市民
- 図書館、学校等の読書活動と関わりのある団体

(5) 対象事業

○札幌市における市民の読書活動の推進に資する事業及び図書館運営に係る事業



2 国及び北海道の動向

- R2（2020）視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画の策定
 R4（2022）学校図書館図書整備等5か年計画（第6次）の策定
 R5（2023）子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第5次）北海道子どもの読書活動推進計画（第5次）の策定
 R7（2025）視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画（第2期）の策定

3 計画策定にあたり考慮すべき環境変化

(1) 社会環境の変化

- 人口減少と少子高齢化の進行（労働力不足、シニア就労・社会参加）
- 家族形態・地域社会の変化（単身世帯の増加、地域の教育力低下）
- 暮らしにおけるデジタル化の拡大（情報格差解消の必要性）
- SNSや生成AIの進展（情報リテラシー教育の必要性）
- 多様性を認め尊重していくことへの社会的要請

(2) 読書環境や図書館運営を取り巻く環境の変化

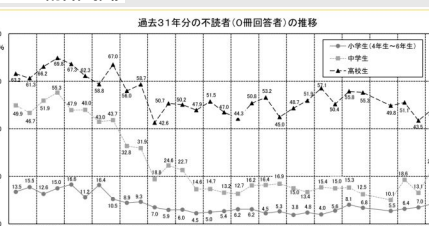
- 成人の読書活動の状況
価値の多様化やデジタル化の拡大といった社会環境の変化の中で、全国的に不読率が上昇する一方、R7年度に札幌市が実施した読書活動についてのアンケートの結果では、5年前の同調査と比較して不読率は減少している（R2:43.3%→R7:35.7%）。
- 子どもの読書活動の状況
全国的な傾向として、中学生の不読率の上昇が目立つ。一方、R7年度に札幌市が実施した読書活動についてのアンケートの結果では、5年前の同調査と比較して高校生の不読率が大きく上昇している（R2:33.1%→R7:48.9%）。
- 視覚障がい者等の読書環境の整備
読書バリアフリー法がR元年度（2019年度）に施行。視覚障がい者等の読書環境の整備を総合的かつ計画的に推進R6年度で第1期基本計画が終了、R7年度から5年間を対象とする第2期基本計画が新たに策定された。
- 札幌市の図書館の現状
図書館来館者の総合満足度が高い傾向（R6年度（2024年度）満足度が94.1%）。一方で、厳しい財政状況を反映し、特に図書購入費予算を確保することが難しい状況や施設の老朽化が進んでいる。

○1か月に読む本の冊数が0冊の人の割合（%）

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
R5	65.1	65	61.3	62.7	60.1	61.9
H30	46.6	48.1	45.4	41.6	43.7	54.1

（出典：文化庁「国語に関する世論調査（R5年度及びH30年度）」より）

○児童・生徒の不読率（1か月に本を1冊も読まなかった子どもの割合）推移



（出典：公益社団法人全国学校図書館協議会「第69回学校読書調査」より）

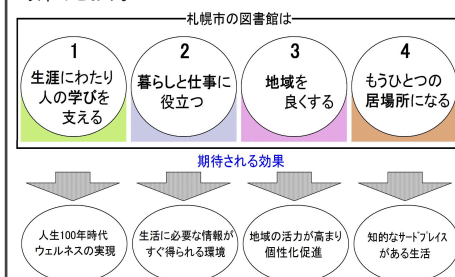
○社会環境や読書活動・図書館運営を取り巻く環境の変化に応じ、図書館政策も柔軟に対応していくことが求められる。
 ○本市の厳しい財政状況を勘案しつつも、多様化する利用者ニーズに応えていくため、持続可能な図書館サービスを構築していくことが求められる。

4 さっぽろ読書・図書館プラン2022における成果と課題

主な成果

- 基本方針1**
「市民の読書環境の充実と情報活用の支援」
⇒有料の予約本郵送サービス（ヨムヨム便）、電子図書館に児童書の読み放題バックを導入
- 基本方針2**
「子どもの読書環境の充実と読書活動の支援」
⇒「こども本の森 札幌・北大」の開設（R8夏）
- 基本方針3**
「全ての市民の学びと情報の拠点としての環境整備」
⇒企画展示やセミナーの充実、PAPA MAMA BOOKS
- 基本方針4**
「持続可能な図書館サービスを見据えた図書館運営」
⇒貸出券のWeb仮登録機能の導入、図書館の在り方調査研究、ふるさと納税（企業版）による寄付（こども本の森）

「さっぽろ読書・図書館プラン2022」の取組項目「図書館の役割や在り方に関する調査・研究」に基づき、図書館の将来の在り方について、R4・5年度に調査を実施した。その中で導かれた札幌市がめざすべき図書館像と期待される効果は以下のとおり。



さっぽろ読書・図書館プラン2022の成果指標

図書館の利用満足度
R2年度 R6年度
(2020年度) → (2024年度)
 92.0% 94.1%
 （目標値：93% R8年度（2026年度））

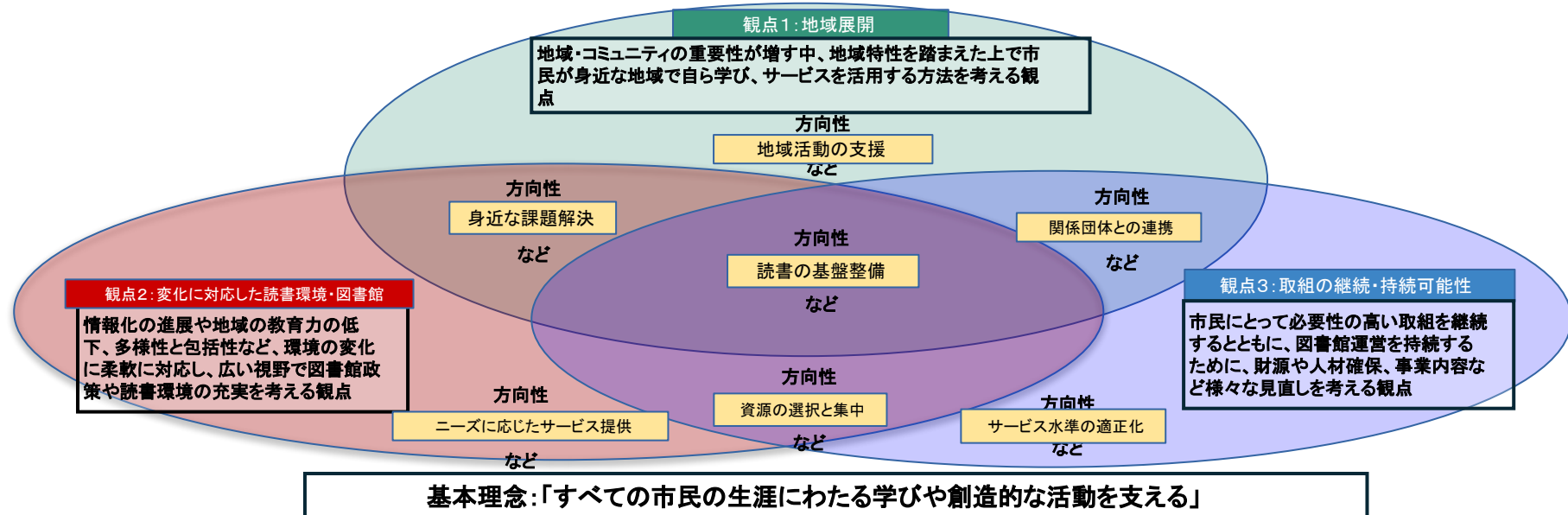
（出典：来館者アンケート）

読書が好きなお子さんの割合（%）	R2年度 (2020年度)	R6年度 (2024年度)	R8年度 (2026年度)
小学校5年生	78.5	73.5	79
中学校2年生	69.8	69.7	78
高校2年生	70.1	69.4	75

（出典：札幌市教育委員会独自調査）

今後の主な課題

- ・20歳代以下の世代の図書館利用率の低下
- ・電子媒体と紙媒体のそれぞれの特性を踏まえた情報提供の在り方
- ・高校生世代の不読率の上昇
- ・電子図書館サービスの利用促進
- ・利便性向上と業務効率化に資する図書館DXの検討
- ・図書館職員の育成
- ・施設の老朽化
- ・図書館の効率的な運営検討



6 基本方針

基本方針1
「時代の変化に対応する、学びと創造の情報拠点の整備」

- 市民の課題解決支援
- 身近な地域の学びの場としての機能強化
- 地域展開と多様な連携による、学びの機会と場の拡充

基本方針2
「すべての市民の読書環境の充実と本や情報と出会う空間づくり」

- 市民のニーズに応える、効果的で多様な資料の収集・提供
- 文字・活字文化に親しむ基盤の整備や読書を楽しむ機会の充実の推進
- 多様性を尊重した、誰もが読書に親しめる環境づくり

基本方針3
「子どもの学びと成長を支える読書環境の充実と読書活動の支援」

- あらゆる機会・場所で子どもが読書に親しめる環境づくり
- 子どもの知的好奇心を引き出し、「自ら学ぶ力」を育む支援の実施
- 子どもの読書活動を支える連携体制と環境基盤の整備

基本方針4
「市民とともに築く、持続可能な図書館運営の実現」

- 図書館を支える人材の育成と協働体制の強化
- 資料の収集・保存体制の充実と経営基盤の強化
- 持続可能な運営基盤の確立と継続的なサービスの改善

7 計画の推進体制

(1) 計画の推進体制

毎年度、附属機関である図書館協議会にアンケート結果や計画の実施状況を報告し、進捗管理を行うとともに、点検・評価を受けた上で、次年度以降の改善に生かす。

(2) 計画の見直し

計画策定後の社会情勢、市民の読書活動や図書館を取り巻く環境の変化などにより、見直しが必要となった際には、適宜計画の見直しを行う。

8 今後のスケジュール(概要)

